

あれはここから始まった

～治田桂四郎さんのご逝去を悼む～

代表 小俣 一郎

当会の2代目代表で、長妻昭衆議院議員の後援会の初代会長でもあった治田桂四郎さんが5月に逝去されました。

治田さんは、情報公開、首相公選制等々の当会のいろいろな活動においていつも先頭に立って引っ張って行って下さいました。中でも「政治をよくするために、いい国をつくるために、よい議員となる人を議会に送り込もう」という当会の一番の活動目標にとりわけ尽力されました。

その当会の推薦活動の一番の成果は、いや、当会の活動の一番の成果は、何といたっても長妻昭さんを国会に送りだしたことです。それは本号3ページに掲載した「生活者通信第3号・2頁掲載」の治田さんの「緊急提言 長妻 昭さんを国政に送りだそう！！」から始まりました。

「5区代表世話人 治田桂四郎」とありますように、当時当会は「平成維新の会」の流れで、衆議院中選挙区制のときの区割を単位として活動していました。ですから、私は平成維新の会のころから東京エリアの役員をしていましたし、また平成維新の会の事務局のボランティアもしていましたので、長妻さんが平成維新の会のスタッフであることは当然知っていましたが、平成維新の会が会員活動を停止した後も政治家を目指されているとはまったく知りませんでした。

この治田さんのご投稿により、長妻さんへの支援は「5区の活動」から「会全体の活動」に広がりました。私の現在にまで続く長妻さんへの支援もこのときの決起集会への参加から始まりました。

当会の推薦活動は政権交代の実現まで続きますが、それを続けるために当会は「平成維新を実現する都民の会」という会の名称を「生活者主権の会」に変更するという大波を乗り越えることにもなりました。当時は治田さんが代表でしたが、推薦活動を続けるために、長妻さんの支援を続けるために、平成11年1月に会の名称を変更。そしてその思いがかなったのが、治田さんが代表を退任される直前の平成12年6月でした。

その後、長妻さんは「消えた年金」を探り出し、「ミスター年金」と呼ばれ、厚生労働大臣にも就任されたわけですが、もしあの時、100人以上の決起集会が開けていなかったら、また、治田さんや吉井さんが東京7区への選挙区変更を強く提言されていなかったら、果たして長妻昭衆議院議員は誕生したでしょうか。

私は初対面の方から当会の紹介を求められたときにはいつも「ミスター年金・ながつま昭衆議院議員を国会に送りだした会です」と答えています。このように大きく胸を張って、誇りを持って言えるもの治田さんのおかげです。

治田さんはその強烈的な個性で時として脱線されることもあり、調整役の私の登場という場面もありました。その他……。治田さんとの思い出は尽きません。

治田さん、これまで本当にありがとうございました。ご冥福をお祈りします。